

エストuary

Estuary 037

～いしかり砂丘の風資料館だより～

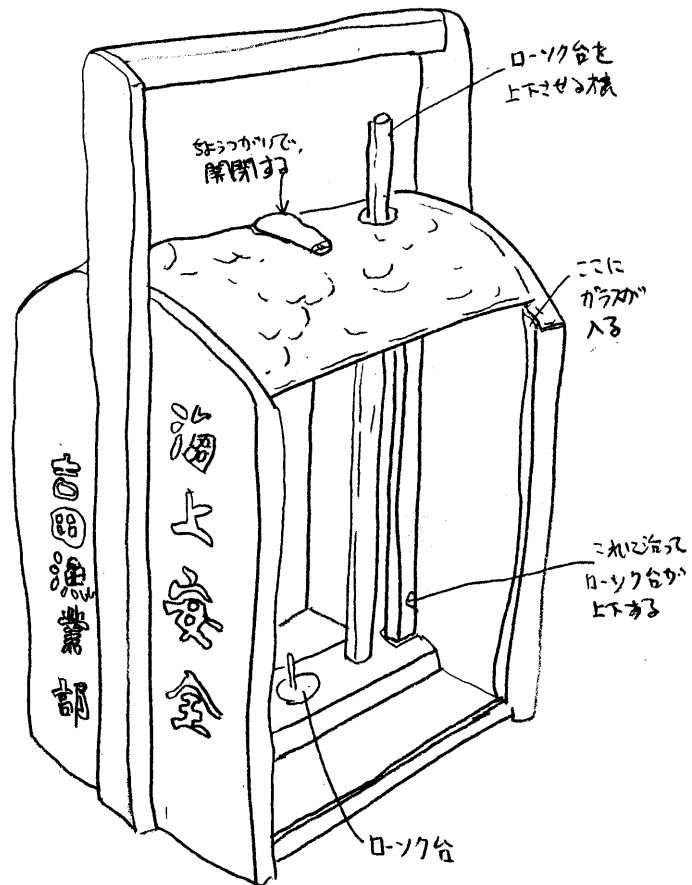
展示資料のひみつ

リターンズ

提灯と呼んでいますが、実際はいわゆるカンテラです。高さ48.5cm、幅27.7cm、奥行き22.5cmの木製で、天板は鉄板でつくられています。前面にはガラスがはめ込まれていました。内側にロウソクを立てて光源としました。ロウソクの点火、消火、交換のためロウソクの台が上下するようになっており、ロウソク上部の天板には丸い扉がつけられています。

鮭地引網漁は、早朝から深夜に及ぶため、このような照明器具が用いられました。

(工藤義衛 くどうともえ)



■鮭漁場提灯

(さげぎよばちょうちん)

時代 昭和20年代
使用地 吉田漁場
全高 48.5cm

走れ！受付おばちゃん

資料館の隣にある旧三長野商店は、明治時代の建物を移築復原したものです。ふだん職員が常駐していないので、入館券は資料館で購入することを立札でお願いし、監視はカメラモニターで行なっています。モニターは受付にあり、これを見ているのも仕事のひとつとなっています。

この長野商店の正面には、古い写真を元に復原された商品名の入った看板が掲げられています。中でも、“千歳”という銘柄の日本酒（大阪の堺市で醸造）の大看板は目を引くのか、それに吸い寄せられるようにお店の中に入って行く人も少なくありません。

入館券をお持ちならば構わないのですが、そうでなければ、受付おばちゃんの出番です。モニターで発見すると、資料館から猛ダッシュです。気付くのに遅れると、石蔵内の展示まで見終わっている人も

います。少し息切れしながら、「すみません。見学するには入館券の購入が…」と言い終わるか終わらないうちに、

「有料なの？表示がわかりづらいよ。」とお叱りの声。（反省します。）

「いやぁ、お酒の看板があったから日本酒を売っていると思って。」

皆さん、早々に外へ出ていかれます。なかには券を買い改めて見学し“楽しかった”と帰られるお客様もいらっしゃるの、目的外で入られた方に、興味をもていただける巧みな話術も必要だと実感しています。

でも何はともあれ、この資料館と長野商店の往復は、私の体脂肪増加防止に一役買っていることに間違いありません。

（倉 雅子 くらまさこ）

考古学の水仕事

「弥生時代といえば稲作」という認識が一般的だと思います。確かに、弥生時代の遺跡からはイネが見つっています。しかし考古学界の長年の傾向として、イネと水田跡の発見に重点を置くあまり、イネ以外の植物種子を軽視してきたという問題点が指摘されています。そのため、種子を探す努力が積極的に行なわれておらず、遺跡から種子が発見されるのは発掘中に“偶然”見つかるか、土壌をふるいにかけてイネなどの比較的大きな種子を探す場合がほとんどでした。

遺跡から種子を検出するには「フローテーション」と

いう方法が最も効果的だと言われています。この方法は、水の中に土壌を浸し、浮いてきた種子を回収するというもので、1mm以下の小さな種子も効率的に検出できます。この手法自体は1970年代から行なわれていますが、30年余りが経過した現在でも積極的に行なわれているとは言えません。そのため、フローテーションが実施されていない遺跡では、イネが数十粒見つかった裏で数百粒のアワやヒエなどの小さな種子が見逃されているかもしれないのです。

フローテーションの実施件数が今後増えることで、弥生時代＝稲作という定説が覆る日が来るかもしれません。

（千田寛之 ちだひろゆき）



←フローテーションの様子



遺跡から出土したアワ（1mm）の種子
（沖縄県名護市屋部前田原貝塚遺跡出土/筆者撮影）

秋～冬の講座・展示

連続講座

石狩大学博物館部 (全4回)

- ①11/7 (土) 石狩歴史学A (工藤義衛)
明治初期の石狩と絵画
- ②11/14 (土) 石狩動植物学 (内藤華子*)
石狩浜の生態系～生き物のつながり～
*石狩浜海浜植物保護センター
- ③11/21 (土) 石狩地球科学 (志賀健司)
漂着物と海と空
- ④11/28 (土) 石狩歴史学B (石橋孝夫)
黄金山とユーカラ



石狩の自然と歴史を調査している4人の学芸員が、最近の研究成果やトピックを写真や図を使ってわかりやすく解説します。

1回だけの受講もOK。3単位(3回)以上修得(受講)した方には、修了証を発行!

※道民カレッジ連携講座(ほっかいどう学)
※いしかり市民カレッジ連携講座

- 時間 13:00～15:00 (4回とも)
- 場所 石狩市民図書館 視聴覚ホール
(石狩市花川北7条1丁目)
- 対象 高校生～大人
- 定員 各回40人(先着順)
- 費用 無料
- 申込 ただいま4回分すべて受付中。
(各回の開催前日まで。)
電話で資料館(0133-62-3711)へ

海の歴史

260万年前の「黒船来航」??

カンブリア紀、ジュラ紀といった地質時代区分の中でもっとも新しい時代、新生代の第四紀。「人類の時代」とも呼ばれています。これまで地質学では、第四紀の始まりを今から180万年前と決めていたのですが、今年、その始まりの時期を見直し、260万年前まで古くすることになりました。これは日本史で言えば、ペリーが黒船でやってきた1853年を明治時代の始まりと決めよう、というくらいの大きな変更です。

地質時代の区分は生物や地球環境の大きな変化を基準にして決めています。第四紀の始まりは、元々は人類の出現を基準として決められていました。しかし新たな発

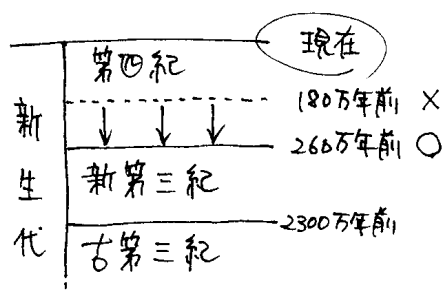
見があるたびに人類の起源はどんどん遡り、今では600万～700万年前頃と考えられるまでになってしまいました。そんなに変わってしまったのでは不都合です。そこで今回、新たな基準とされたのが“北半球氷河時代の始まり”です。

現在、地球上の氷床(大陸を覆うほどの氷河)は、南半球(南極)だけでなく北半球(グリーンランド)にもあります。そして数万年ごとに地球は寒暖を繰り返し、寒い時期=氷期には、北半球の氷床は広がって、北アメリカやヨーロッパまで氷に覆われるようになります。そんな時代が「北半球氷河時代」です(現在も含まれています)。その始まりが今からおよそ260万年前頃。それが今回決まった「第四紀のスタート」です。つまり第四紀とは「北半球に大きな氷河ができて地球が寒くなった時代」と決め直された、ということです。それは、現在の地球の気候のしくみができあがった時代であり、気候変動という外からの圧力が人類を大きく発展させたと考えられています。

さて、この260万年前――。どうして地球は氷河時代に突入したんでしょう? その最大の原因は、大陸のちょっとした動きが引き起こした、海の大事件です。

(つづく)

(志賀健司 しがけんじ)



近藤先生と 竹ベラのこと

10月初旬、近藤義郎（よしろう）先生の訃報が伝えられました。先生は岡山大学で長く考古学を研究され、古代国家形成論にかかわる弥生墳丘墓の調査、市民とともに遺跡を発掘する運動を始められた人として著名です。近藤先生と私は1981年、先生が国内研究員として北海道大学に滞在した際にお会いし、石狩市内をはじめ道北の遺跡見学旅行にお連れしたことなどが縁で、お付き合いが始まりました。1982年3月には岡山に行って、古墳発生前の弥生墳丘墓の楯築（たてつき）遺跡で気球カメラによる調査のお手伝いをしました。気球カメラは私の友人のS氏の開発によるもので、石狩市内の志美遺跡の発掘の際に使用していたことから、墳丘墓や古墳の調査にも活用できると導入を決めたい。

先生は、口癖のように「北海道の遺跡調査では竹ベラを使わない」といって竹ベラ使用を説く人でもありました。口の減らない友人が「北海道に竹は自生しません」といったら岡山から竹を取り寄せて竹ベラを製作して、

配布する熱の入れようでした。竹ベラというのは孟宗竹など太い竹を割って先を削ってヘラ状にしたもので、細かな部分の発掘や遺物に傷が付きにくいなどの利点があります。しかし北海道ではあまり使用されることがありません。私が思うに、先生の竹ベラ普及は口実で、北海道の人は発掘調査の原点に立ちかえるべきだという主張をしていたのだらうと思います。当時の道内は発掘調査が目白押しで、そのことも手伝ったのだらうと思います。岡山に帰った直後、学生たちに「北海道に竹ベラを伝播させるために行ってきた」と話したそうです。

その後、竹ベラは石狩紅葉山49号遺跡などで大活躍しましたが、先生と竹ベラの効用についてお話しする機会はついに訪れませんでした。

（石橋孝夫 いしばしたかお）

年末年始の休館日は…

12月29日（火）～1月3日（日）
2010年は1月4日（月）から開館します。

■最近の「いしかり博物誌」（石狩市広報に連載中）

- ☞第102回：幻の石狩ホテル（09年9月号）
- ☞第103回：明治時代のスケッチブック（09年10月号）
- ☞第104回：「四角い穴」事件（09年11月号）

テーマ展 資料館のお宝2010

12月
開始

昔の道具でも、海辺で拾った貝殻でも、資料館にとっては未来に残す大切なお宝！
この1年間にみなさんからいただいた資料や、採集した標本などを展示します。

■期間 12月～2010年3月

■場所 いしかり砂丘の風資料館

※資料館の入館料（大人300円、中学生以下無料）が必要です。

編集後記

今年はとても少ない！とは、石狩に漂着するアオイガイ（暖流に乗ってやってくるタコの殻）のことです。近年なら何個も見つかるはずの時期に浜辺を歩いても1個も見つからない日が続きます。ガックリはしますが、でも「ゼロ」も重要な情報。「データなし」とは全く意味が違います。「ゼロ」という客観的なデータを得るために、今日も浜辺を歩きます。（け）

いしかり砂丘の風資料館

開館時間 午前9時30分～午後5時00分
休館日 毎週火曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始
入館料 300円（中学生以下は無料）、
団体料金240円（15名以上）
交通 中央バス札幌ターミナルより石狩行き乗車、
「石狩温泉」下車、徒歩1分
（石狩温泉「番屋の宿」向かい）

エスチユアリ No.37

2009年11月7日 発行

いしかり砂丘の風資料館
〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4
TEL/FAX: 0133-62-3711
bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp
<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/museum/>